

南アルプス市立八田中学校 後期自己評価書

令和4年1月7日(金)作成

学校長：穴水 秀人

記述者：教頭 林 健一郎

【小中一貫校八田小中学校の教育】

1. 教育目標 「ふるさとの未来（あす）を創造する児童生徒の育成」
～知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指して～
2. 『八田 Children first』「明るい 伸びゆく 夢みる」児童から「未来を展く 理想は高く 世界をめざす」生徒へ
小中一貫校八田小中学校の教育は、【八田 Children first】をコンセプトに『1. 学習をつなぐ 2. 児童生徒をつなぐ 3. 教職員をつなぐ 4. 学校・家庭・地域をつなぐ』の4つの『つなぐプロジェクト』を柱とし、義務教育9年間で「途切れのない連続させた教育」となるよう取り組みます。
3. めざす児童生徒像
○ふるさとを大切に思う児童生徒
○変化の激しい先行き不透明な社会に対応できる主体性のある児童生徒
○自律性・豊かな人間性を持ち、たくましく生きていくための健康、体力を持った児童生徒

【学校経営の概要】

1. 校訓 『日日新』（ひびあらた）
2. 学校教育目標
心豊かで かしこく 心身ともに健やかな生徒の育成
3. めざす生徒像
＝「知育・徳育・体育」の調和のとれた人間形成＝
は 励んで学び、確かな知識を持つ生徒（知育）→ 知の力
っ 強い精神と身体を持つ生徒（体育）→ 体の力
た 助け合い、いたわり合う心を持つ生徒（徳育）→ 心の力
4. 経営の基本方針
 - (1)すべての教育活動を生徒の育成に収斂する。
 - (2)山梨県学校教育指導重点、南アルプス市学校教育大綱及び教育振興プラン、各種法令に則った教育活動を行う。
 - (3)小中一貫校として、開かれた・特色ある・信頼される学校づくりに努める。
 - (4)生徒が安心して、安全に生活できる学校づくりに努める。
 - (5)日常での教師と生徒の信頼関係を基盤として、生徒理解を深め、一人ひとりのよさや可能性が生かされるように努める。
 - (6)教職員としての資質能力向上を図り、信頼される教育活動の実践・展開に努める。
 - (7)家庭・地域等との連携により、望ましい教育環境づくりに努めるとともに、外部機関等との信頼関係の構築にも努める。
5. 経営の柱
 - 【確かな学力の育成】
 - (1)個に応じたきめ細やかな指導
 - (2)社会情勢に対応した教育
 - (3)特別支援教育の充実
 - 【豊かな心の育成】
 - (1)ふるさと教育の推進
 - (2)情操教育の充実
 - (3)一人ひとりを大切にした教育・指導体制の充実
 - 【健やかな体の育成】
 - (1)体力の向上
 - (2)食育・健康教育の推進
 - 【学びを支える環境の整備】
 - (1)教職員の資質・能力向上
 - (2)家庭・地域と連携した学校づくり
 - (3)小中一貫教育の推進
 - (4)危機管理体制の整備・充実

I 全体評価

1. 教職員の自己評価 (21名実施)

(1) 後期自己評価の特徴

① A・B (肯定的評価) の合計が100%の項目について

- 1: 児童生徒は楽しく学校生活を送っている
- 3: 児童生徒の安全が確保されるように防災教育・防犯教育等に努めている
- 9: 児童生徒とコミュニケーションをとるなど、児童生徒理解に努めている
- 11: いじめなどの諸問題に対して、「未然防止、早期発見、早期対応」を心がけ、楽しい学級、学年、学校づくりに努めている

② A・B (肯定的評価) の合計が90%未満の項目について (前期→後期の変化)

- 2: 児童生徒は小中一貫校の教育目標『ふるさとの未来(あす)を創造する児童生徒の育成』達成に近づくため、各自の目標を持って学校生活を送っている (76%→81%)
- 4: 小中一貫校(分離型)として、児童生徒の交流や、職員の交流を積極的に行っている (86%→77%)
- 5: ワーク・ライフ・バランスを意識した業務改善に努めている (86%→71%)
- 7: 計画的な家庭学習の手立てをしている (81%→63%)
- 15: 地域の人材を利用するなど、地域の教育力を生かし、地域に開かれた学校となるよう努めている (76%→76%)

③ D (否定的評価) がついた項目について (回答数)

- 2: 児童生徒は小中一貫校の教育目標『ふるさとの未来(あす)を創造する児童生徒の育成』達成に近づくため、各自の目標を持って学校生活を送っている (1)
- 5: ワーク・ライフ・バランスを意識した業務改善に努めている (2)
- 12: 保護者(家庭)と密に情報交換し、指導に取り組んでいる (1)

④ 前期評価との比較 (改善した項目、悪化した項目)

○ 改善した項目 (前期→後期の変化)

- 2: 児童生徒は小中一貫校の教育目標『ふるさとの未来(あす)を創造する児童生徒の育成』達成に近づくため、各自の目標を持って学校生活を送っている (76%→81%)
- 8: GIGAスクール構想に対応した、リテラシー教育、モラル教育を行っている (81%→90%)

● 悪化した項目

- 4: 小中一貫校(分離型)として、児童生徒の交流や、職員の交流を積極的に行っている (86%→77%)
- 5: ワーク・ライフ・バランスを意識した業務改善に努めている (86%→71%)
- 7: 計画的な家庭学習の手立てをしている (81%→63%)
- 14: 各種たよりを発行するなど、積極的な情報提供を行い、地域に開かれた学校づくりとなるよう努めている (100%→91%)

(2) 3学期～来年度に向けた取組課題 (自由記述より抜粋)

○ 生徒の育成に関わる課題

- 2: 学習については、さらに意識を高める必要性を感じる。
- 7: 力が着く家庭学習ができていない。課題等を出しても、取り組み方に個人差がありすぎるため、工夫した課題提示をしていきたい。

○ 小中一貫・地域との交流に関わる課題

- 2: コミュニティ・スクールへの移行をチャンスととらえたい。
- 4: 「小中一貫」という名前に対してどんな部分が「一貫」なのか、教員ではない人からするとどんな活動やシステムが「一貫」であるのかが見えてこない。
- 15: コミュニティ・スクールへの移行に関わって、地域に開かれた学校づくりが大きな課題である。

○ その他の課題

- 5: 組織として業務改善が行われているかについては疑問です。(働き方改革の推進の必要性)
- 16: 行事は充実したいが、その裏側には教育課程を圧迫している現状あり。工夫にも限界があるので、は？(行事の精選・教育課程の見直しの必要性)

2. 学校生活に関する生徒アンケート (160名実施)

(1) 生徒アンケートの特徴

① A・B (肯定的評価) の合計が80%以上の項目について

17項目(睡眠時間、携帯・スマホに関わる質問項目は除外)中、12項目において、肯定的評価が80%以上となっている。また、そのうち90%以上が肯定的評価である質問項目が8項目あった。

② A・B (肯定的評価) が低い項目(80%未満)について (前期→後期の変化)

3:あなたは、授業中発言をしますか(小グループでの話し合い時も含む) (64%→74%)

4:あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか (58%→64%)

6:あなたは、宿題以外にも家庭学習(塾や家庭教師を除く)に取り組んでいますか (56%→66%)

7:あなたは、家で読書をしていますか(宿題を除く) (56%→56%)

10:あなたは、困ったことや心配なことがあったら、先生に相談しますか (66%→77%)

※ いずれの項目も、80%を下回っているものの、前期アンケートと比較すると、改善傾向が見られた。

(2) 経年変化(1年生→3年生になるにつれ、一定の変化がみられる項目)

○上級生になるほど改善がみられる項目

(1年→2年→3年)

4:あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか (50%→55%→84%)

5:あなたは、学校や学年・学級へ提出するものが出せていますか (83%→90%→95%)

7:あなたは、家で読書をしていますか(宿題を除く) (50%→53%→66%)

9:あなたは、相手の気持ちを考えて行動していますか (96%→98%→100%)

10:あなたは、困ったことや心配なことがあったら、先生に相談しますか (69%→71%→88%)

●上級生になるほど悪化する項目

(1年→2年→3年)

3:あなたは、授業中発言をしますか (78%→75%→68%)

(3) 前期との比較

① A・B (肯定的評価) の合計がある程度増加した項目

(前期→後期の変化)

3:あなたは、授業中発言をしますか(小グループでの話し合い時も含む) (64%→74%)

4:あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか (58%→64%)

6:あなたは、宿題以外にも家庭学習(塾や家庭教師を除く)に取り組んでいますか (56%→66%)

10:あなたは、困ったことや心配なことがあったら、先生に相談しますか (66%→77%)

19:あなたは、自分専用の携帯(スマホ)を持っていますか (87%→90%)

② A・B (肯定的評価) の合計がある程度減少した項目

(前期→後期の変化)

8:あなたには、悩みごとなどを相談できる友達がありますか (91%→88%)

20:(携帯・スマホについて)保護者と使い方のルール作りをしていますか (81%→69%)

(4) 昨年度後期との比較

① A・B (肯定的評価) の合計がある程度増加した項目

(R2→R3の変化)

2:あなたは、授業が全般的にわかりやすいと思いますか (94%→98%)

3:あなたは、授業中発言をしますか(小グループでの話し合い時も含む) (68%→74%)

5:あなたは、学校や学年・学級へ提出するものが出せていますか (82%→89%)

6:あなたは、宿題以外にも家庭学習(塾や家庭教師を除く)に取り組んでいますか (61%→66%)

10:あなたは、困ったことや心配なことがあったら、先生に相談しますか (73%→77%)

14:あなたは、給食当番や清掃をしっかりとやっていますか (94%→99%)

16:あなたは、規則正しい生活(早寝・早起き・朝ごはん)ができていますか (80%→86%)

18:あなたは、家の人に学校のことを話していますか (82%→85%)

19:あなたは、自分専用の携帯(スマホ)を持っていますか (77%→90%)

② A・B (肯定的評価) の合計がある程度減少した項目

(R2→R3の変化)

7:あなたは、家で読書をしていますか(宿題を除く) (60%→57%)

20:(携帯・スマホについて)保護者と使い方のルール作りをしていますか (87%→69%)

(5) 3学期～来年度に向けた取組課題

① 肯定的評価が80%未満の5項目を改善することを課題とする

- 3：あなたは、授業中発言をしますか（小グループでの話し合い時も含む）
- 4：あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか
- 6：あなたは、宿題以外にも家庭学習（塾や家庭教師を除く）に取り組んでいますか
- 7：あなたは、家で読書をしていますか（宿題を除く）
- 10：あなたは、困ったことや心配なことがあったら、先生に相談しますか

② 携帯、スマホの使い方について、保護者とのルールづくりを推奨する

3. 保護者アンケート（163名実施：兄弟姉妹がいる場合も、生徒数分の回答をお願いした。）

※ 本年度より、年2回行っていた保護者アンケートを、年1回の実施とした。

(1) 保護者アンケートの特徴

① A・B（肯定的評価）の合計が90%以上の項目について

14項目（携帯・スマホに関わる質問項目は除外）中、8項目において、肯定的評価が90%以上となっている。

- 1：学校は、お子さんにとって、楽しいところだと思いますか (92%)
- 2：学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか (92%)
- 3：学校はいじめの未然防止や子供たちの間違った行動に対して、指導していると思いますか (92%)
- 4：学校は教育活動に適した施設・設備が整っていると思いますか (91%)
- 7：授業参観や学校行事などは、子どもの様子を良く知る機会となっていますか (91%)
- 12：お子さんの仲の良い友達を知っていますか (96%)
- 13：お子さんには、困ったときに相談などのできる友達がいると思いますか (93%)
- 14：お子さんは、あいさつを良くしますか (91%)

② A・B（肯定的評価）の合計が80%未満の項目について

14項目中3項目において、肯定的評価が80%未満となっている。

- 9：お子さんは、授業の内容がわかっていると思いますか (72%)
- 10：お子さんは、宿題（課題）を忘れずにしていますか (73%)
- 11：お子さんは、宿題のほかにも家庭学習（塾や家庭教師を除く）をしていますか (51%)

③ 携帯・スマホに関わる質問

(1年、2年、3年、全校)

- 15：お子さんは、自分の携帯・スマホ・タブレットを持っていますか (はい:82%、88%、88%、86%)
- 16：携帯・スマホの使い方についてお子さんとルールを決めていますか (はい:89%、84%、80%、84%)

(2) 昨年度後期との比較

① A・B（肯定的評価）の合計がある程度増加した項目

(R2→R3の変化)

- 2：学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか (85%→92%)
- 3：学校はいじめの未然防止や子供たちの間違った行動に対して、指導していると思いますか (87%→92%)
- 13：お子さんには、困ったときに相談などのできる友達がいると思いますか (90%→93%)
- 15：お子さんは、自分の携帯・スマホ・タブレットを持っていますか (77%→86%)

② A・B（肯定的評価）の合計がある程度減少した項目

(R2→R3の変化)

- 6：学校（学年・学級）だよりやホームページから教育活動の様子を知ることができますか (89%→85%)
- 11：お子さんは、宿題のほかにも家庭学習（塾や家庭教師を除く）をしていますか (55%→51%)
- 16：携帯・スマホの使い方についてお子さんとルールを決めていますか (87%→84%)

(3) 評価項目に関わる意見

(アンケート項目・回答について)

- ・部活動についても評価項目に含めてもよいのではないかと感じました
- ・回答に「わからない」という選択肢を入れてほしい。

(学校生活・学習について)

- ・親子で話す機会も減り、コロナで授業参観も少なく、学校の様子があまり見えてこないが楽しそうではある。小学校の時よりさらに自主学をしていない気がする。数学が特に心配。
- ・学校の宿題は、ほばないように思っていますが、実際はどうなのでしょう。自主学が宿題の状態では、学習量や内容に差が出ます。その差が大きくなることで、学習の理解度にも差が出てしまうのではないのでしょうか。自主性が大切というのわかりますが、八田中全体の学力が低くなっていないのでしょうか？
- ・特段の問題点を感じません。ただ、私達の中学生時代と比べると全体的に好奇心や探究心が希薄な感じを受けます。もっと try&error の中から学んで欲しいかなと思っています。
- ・いつもお世話になっております。生徒指導等早急な対応をしていただき感謝しています。また、悩みや相談も親身になってのってくださり感謝しています。
今後とも、生徒のために指導や感染症対策の徹底も引き続きよろしくお願いいたします。

(コロナ対策について)

- ・学校としてコロナ対応の判断は状況変化が読めず難しい点であるなか子供たちのためを考えてくださってのことで理解しておりますが、学園祭や合唱コンクール等で平日開催や学年入替え対応をとるのであればそもそも行ける親も少ないので親2名までOK、体育部門は外なので観戦OK でよかったのではと感じました。行事は親子共に大切な思い出となる機会なので可能な中で極力広く受け入れ設定頂けると嬉しいです。親として学校や活動を身近に感じられるかにも影響するように感じます。引き続き知恵を絞って頂くことが多く恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

(その他)

- ・子どもがあいさつをしても、あいさつを返さない生徒や先生がいると聞く。道徳心の欠如を感じる。勉強も大事だが、道徳心を身につけていない人間は善悪の判断を誤る恐れがある。その教育にこそ、力を入れるべきだと思う。

II まとめ(成果と課題)

「教職員自己評価」「生徒アンケート」「保護者アンケート」の結果から、今後以下の事柄について改善をしていく必要がある。

(1) 学習保障と学力向上のための取組

【成果】

- 小中一貫校として義務教育9年間を見通した教育課程を実施しようと研究する中で、小中間の情報交換・共有がすすみ、教師サイドの連携が進んでいる。

【課題】

- 「生徒アンケート」から、生徒の授業に取り組む姿勢や家庭学習へのとりくみに課題があるということがうかがえる。コロナ下で対話的な学習がやりづらい影響もあるが、授業中の発言をしない生徒も少なからずおり、学習中の姿勢もあまりよくないことがわかる。
- 「保護者アンケート」からも、特に家庭学習について保護者の不安が大きいことがわかる。
- 「教職員自己評価」を見ても、家庭学習の手立てについて、課題を感じている職員が多い。

【対策】

- ・本校の特色を大切に守りつつも行事の精選をすすめ、生徒に十分な学力を保障できる教育課程を編成する。その際に、職員の業務改善（行事等の見直しや働き方改革等）にも留意することで、生徒と向き合う時間や教材研究等の時間をしっかりと確保する。
- ・新学習指導要領に沿って、「主体的・対話的で深い学び」が行われるように教師が授業力を高め、授業改善に努める。同時に、「変化の激しい、先行き不透明な社会」にも適応できる力（「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性」）などを育む。そのためには、グループ討議や体験を通じた学習、他人に教える経験等の共同学習が大切である。コロナ下の学習では、討論や体験が思うよ

うに進められないことが予想されるが、できることを最大限保証する中で、アフターコロナを見通した教育課程づくりを進める。

- ・一斉授業では発言（表現）ができない生徒も、グループ学習では自らの考えを発表しやすくなる。一方教師も机間巡視をし、一人一人の生徒の考えを見取ることが可能となる。授業内容にもよるが、エラーレスラーニングやパフォーマンス評価を取り入れる中で、個々の考えを教師が肯定的に評価する学習を積み重ね、個々が自分の考えに自信を持てる素地を作る。
- ・八田小中学学習スタンダード（学習スキル・学習プロセス・学習モデル・学習ツール・学習チーム・学習ルール）を意識した授業づくりを推進する。
- ・県教委から出されている「学びの甲斐善八か条」を基に、家庭学習の定着を図る。最低でも中学校3年間、できれば小学校と歩調を合わせ、小中9年間一貫した家庭学習のスタイルを構築する。

(2) いじめ・不登校に対する取組

【成果】

- 1～2学期間でいじめを6件（1学期3件、2学期3件）認知し、①解消している（3件）②一定の解消図られたが、継続支援中（3件）であった。重大事態（生命心身財産重大事態・不登校重大事態）は、今のところない。

【課題】

- 教員が「児童生徒とコミュニケーションをとるなど児童生徒理解に努めている」と100%回答しているのに対して、「困ったことがある時に相談できる友だちや先生がいない」と答える生徒が少なくない。
- SNS等を背景とした人間関係のトラブルが増えてきたが、携帯・スマホを持つ生徒が増加しているのに対して、保護者と使い方のルールを定める家庭が減少してきている
- 学校規模からすると、不登校や不登校気味の生徒が少なくない。（2学期末30日以上欠席7名）

【対策】

- ・「学校いじめ防止基本方針」に則った取組を確実にを行うとともに、毎年見直しを行う。
- ・引き続き、いじめの認知を積極的に行い、早期発見・早期対応に努めていく。
- ・いじめの未然防止の取組（授業づくり・集団づくり・居場所づくり・絆づくり）を継続していく。
- ・「いじめ対策委員会」を中心として、組織的な対応を行う。
- ・いじめ防止に繋がる道徳科の授業や道徳教育を充実させる。
- ・SNS等を介した人間関係トラブルが増えていることから、保護者も含めた啓発・ルール作りを進める。
- ・不登校気味の生徒に対して、保健室だけではなく、個別の部屋（相談室・学習室・会議室・パソコン準備室等）を確保し、その対応にあたる。
- ・いじめの被害者や不登校生徒に寄り添いながら、相談（SCを含む）や家庭訪問等を行う。
- ・保護者との連絡を密にするとともに、関係機関（児童相談所・市子育て支援課・警察署・病院等）との連携をとりながら、指導にあたる。

(3) 地域に開かれた学校づくり（R4年度～コミュニティ・スクールへの移行）に向けた取組

【成果】

- コロナ下ではあったが、かなり行事でコロナ以前の実施形態に戻すことができ、保護者に参観いただくことができた。特に強歩大会を、地域の方の応援の中実施できたことは良かった。

【課題】

- 保護者、地域の方への情報公開（各種たよりやHPの充実）が不十分である。
- 小中一貫校のめざすところが保護者や地域住民に十分に伝えきれていない。

【対策】

- ・CS（コミュニティ・スクール）のめざすもの、移行によって変化することなどを、職員・生徒・保護者、地域の方々に周知していく。
- ・地域の方を教育課程の中に取り込む工夫をする。（授業や部活動のお手伝いなど）そのために、地域の人材を掘り起こす。
- ・HPに学校評価の結果を掲載し、地域の方々の理解を得る。
- ・学校運営協議会において、学校評価をもとにした学校経営方針を示し、理解を得る。また、その結果をPTA総会等の機会において、全保護者に周知する。

